

各設問調查結果

1 男女平等意識について

(1) 各分野における男女の地位

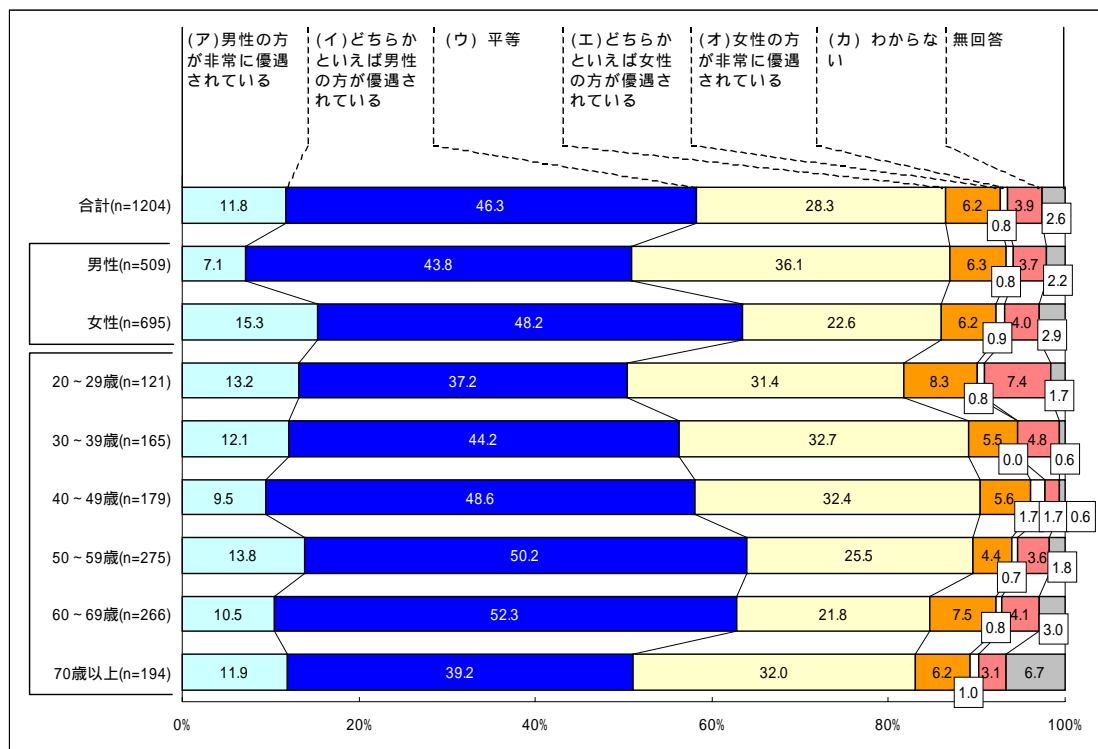
問1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。(1つ選択)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

家庭生活では

『男性優遇』58.1% > 「平等」28.3% > 『女性優遇』7.0%

家庭生活における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.3%と最も高く、「平等」が28.3%、「男性の方が非常に優遇されている」が11.8%で続いている。『男性優遇』(58.1%)が、「平等」(28.3%)、「女性優遇」(7.0%)を大きく上回っている。

【性別】

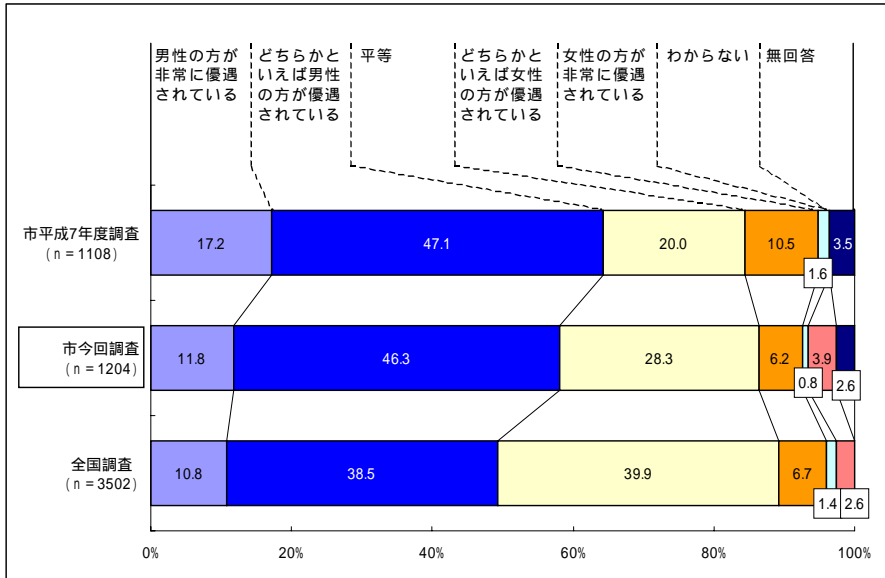
男性で「平等」が36.1%と、女性(22.6%)に比べ13.5ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が15.3%、「男性優遇」が63.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	13.2	47.7	24.1	10.9	1.4	0.0	2.8
	市今回調査	509	7.1	43.8	36.1	6.3	0.8	3.7	2.2
	全国調査	1616	7.4	33.4	46.9	7.9	1.7	2.8	0.0
女性	市平成7年度調査	643	20.2	46.7	17.3	10.6	1.7	0.0	3.6
	市今回調査	695	15.3	48.2	22.6	6.2	0.9	4.0	2.9
	全国調査	1886	13.7	42.9	33.9	5.8	1.2	2.5	0.0

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、男性で「平等」が増加し、『男性優遇』が減少している。女性では特に大きな差異は認められない。

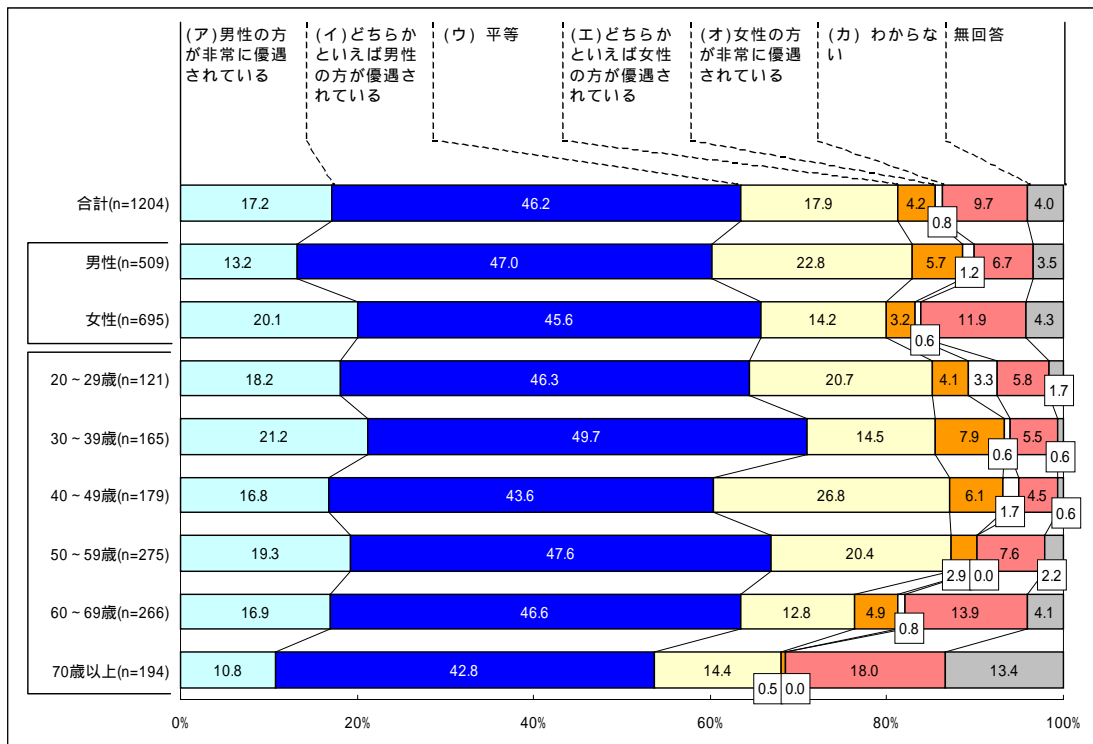
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が高く、「平等」が低い。

【注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。
全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。】

職場では

『男性優遇』63.4% > 「平等」17.9% > 『女性優遇』5.0%

職場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.2%と最も高く、「平等」が17.9%、「男性の方が非常に優遇されている」が17.2%で続いている。『男性優遇』(63.4%)が、「平等」(17.9%)、「女性優遇」(5.0%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が22.8%と、女性(14.2%)に比べ8.6ポイント高い。

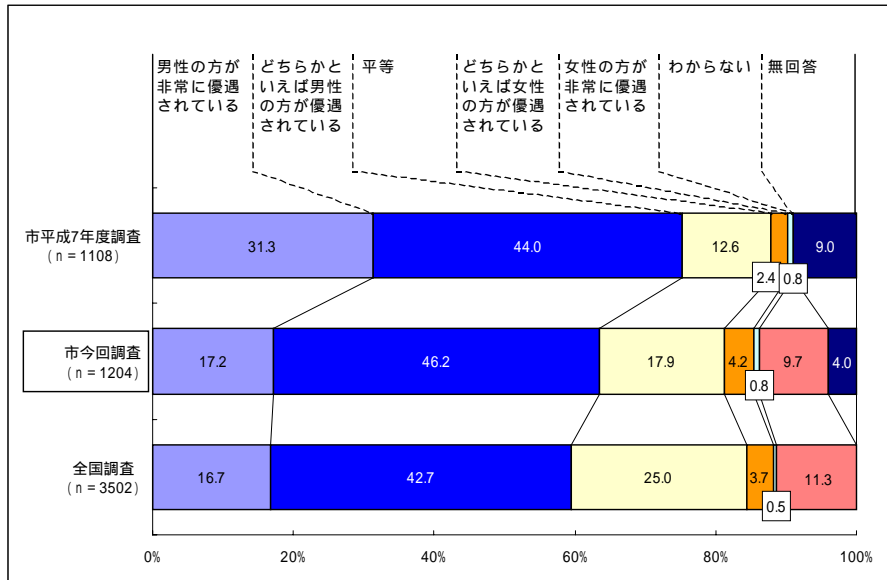
【年齢別】

40～49歳で「平等」が26.8%と、他の年代に比べ高い。

なお、70歳以上で「男性の方が非常に優遇されている」、「男性優遇」が69歳以下に比べ低い、「わからない」、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	27.8	45.1	16.4	3.9	1.1	5.6	
	市今回調査	509	13.2	47.0	22.8	5.7	1.2	6.7	
	全国調査	1616	13.2	42.3	30.2	5.0	0.8	8.5	
女性	市平成7年度調査	643	34.5	42.9	10.1	1.4	0.3	10.7	
	市今回調査	695	20.1	45.6	14.2	3.2	0.6	11.9	
	全国調査	1886	19.7	43.1	20.6	2.7	0.2	13.7	

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、女性で『男性優遇』が減少している。男性では『男性優遇』が減少し「平等」が増加している。

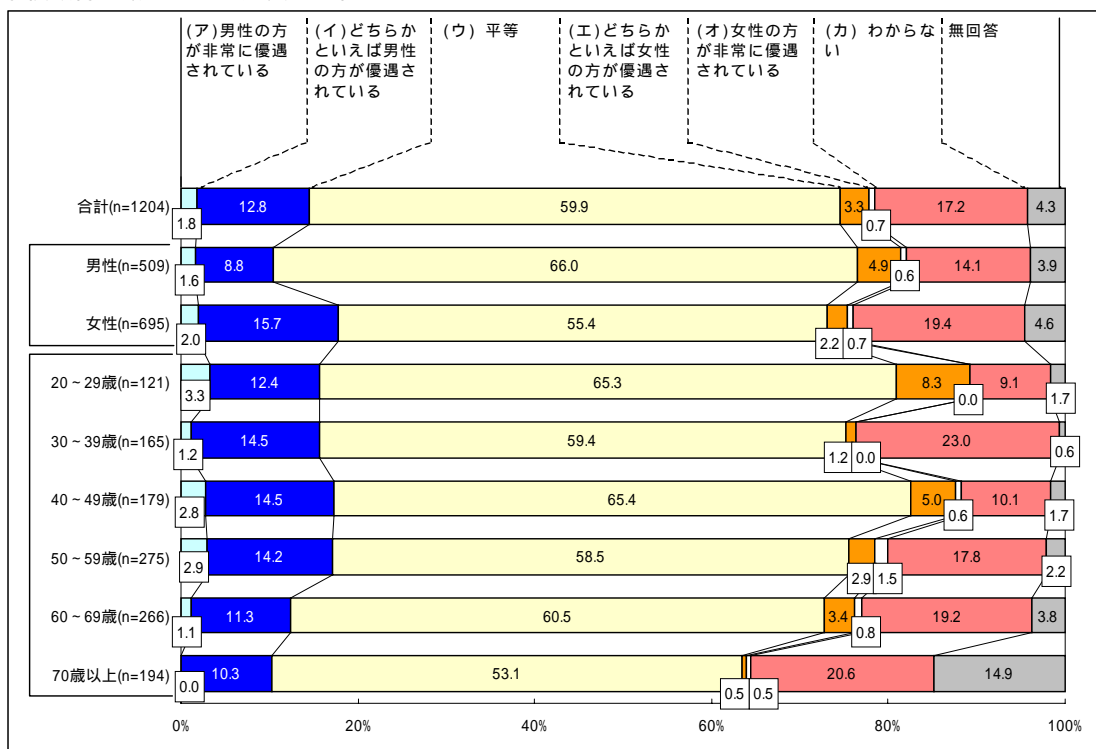
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに「平等」が低い。

【注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。
全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。】

学校教育の場では

「平等」59.9% > 『男性優遇』14.6% > 『女性優遇』4.0%

学校教育の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「平等」が59.9%と最も高く、「わからない」が17.2%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が12.8%で続いている。「平等」(59.9%)が、『男性優遇』(14.6%)、『女性優遇』(4.0%)を大きく上回っている。

【性別】

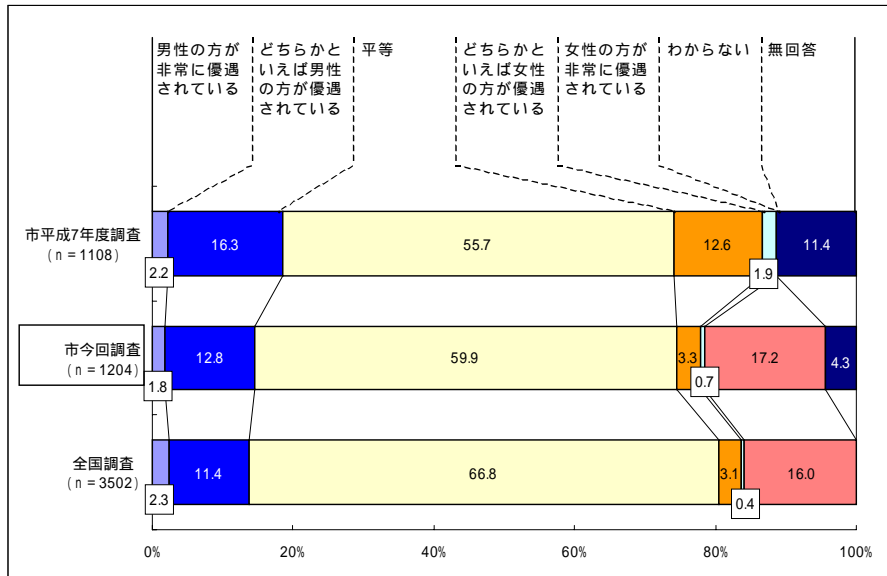
男性で「平等」が66.0%と、女性(55.4%)に比べ10.6ポイント高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が15.7%、『男性優遇』が17.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	0.5	13.4	58.8	16.4	3.1	-	7.9
	市今回調査	509	1.6	8.8	66.0	4.9	0.6	14.1	3.9
	全国調査	1616	1.2	9.8	70.0	3.5	0.7	14.7	-
女性	市平成7年度調査	643	3.4	18.0	54.3	10.0	1.2	-	13.1
	市今回調査	695	2.0	15.7	55.4	2.2	0.7	19.4	4.6
	全国調査	1886	3.1	12.7	64.1	2.8	0.2	17.1	-

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、女性で『女性優遇』が減少している。男性では『女性優遇』が減少し「平等」が増加している。

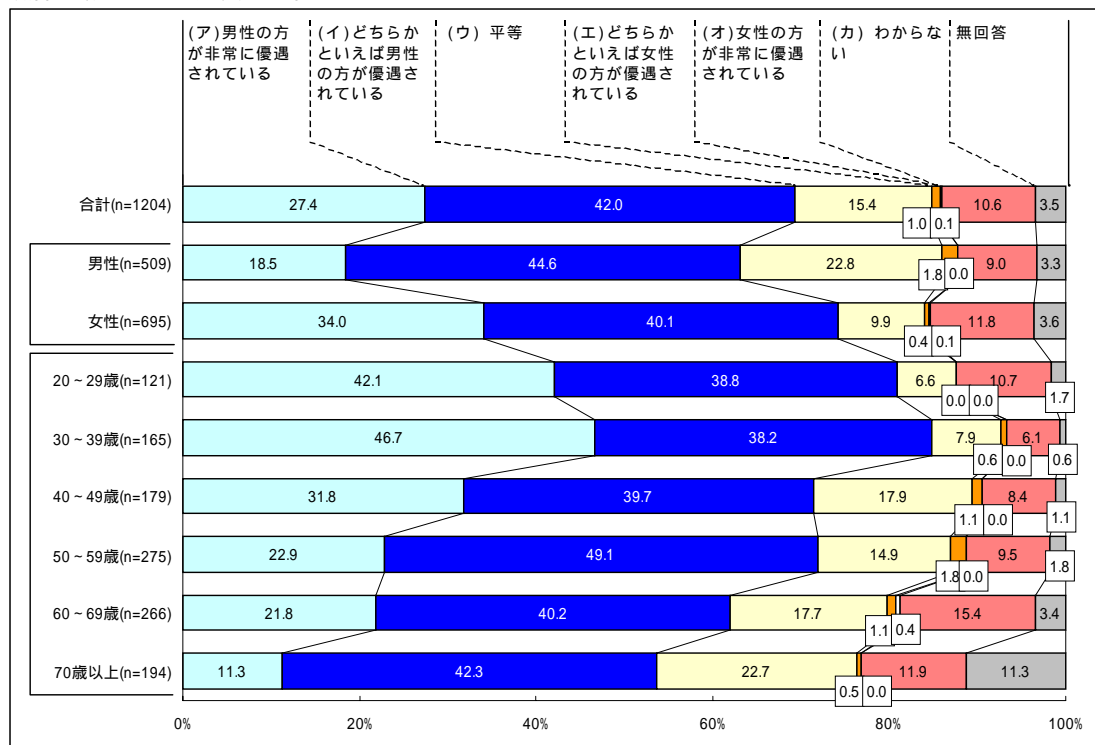
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、女性で「平等」が低い。男性では特に大きな差異は認められない。

〔 注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。
 全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

政治の場では

『男性優遇』69.4% > 「平等」15.4% > 『女性優遇』1.1%

政治の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.0%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が27.4%、「平等」が15.4%で続いている。『男性優遇』(69.4%)が、「平等」(15.4%)、『女性優遇』(1.1%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が22.8%と、女性(9.9%)に比べ12.9ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が34.0%、『男性優遇』が74.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

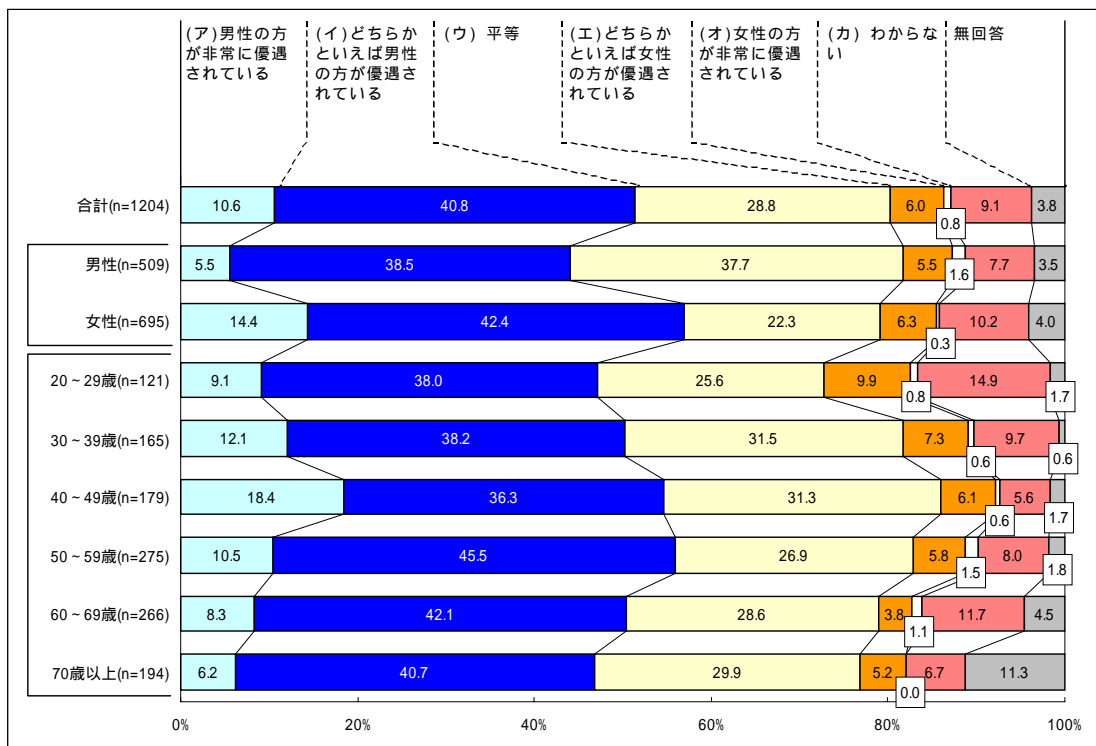
【年齢別】

39歳以下で「男性の方が非常に優遇されている」が4割以上、『男性優遇』が8割以上と40歳以上に比べ特に高く、「平等」が1割未満と40歳以上に比べ低い。

地域活動の場では

『男性優遇』51.4% > 「平等」28.8% > 『女性優遇』6.8%

地域活動の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.8%と最も高く、「平等」が28.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.6%で続いている。『男性優遇』(51.4%)が、「平等」(28.8%)、「女性優遇」(6.8%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が37.7%と、女性(22.3%)に比べ15.4ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が14.4%、「男性優遇」が56.8%とそれぞれ男性に比べ高い。

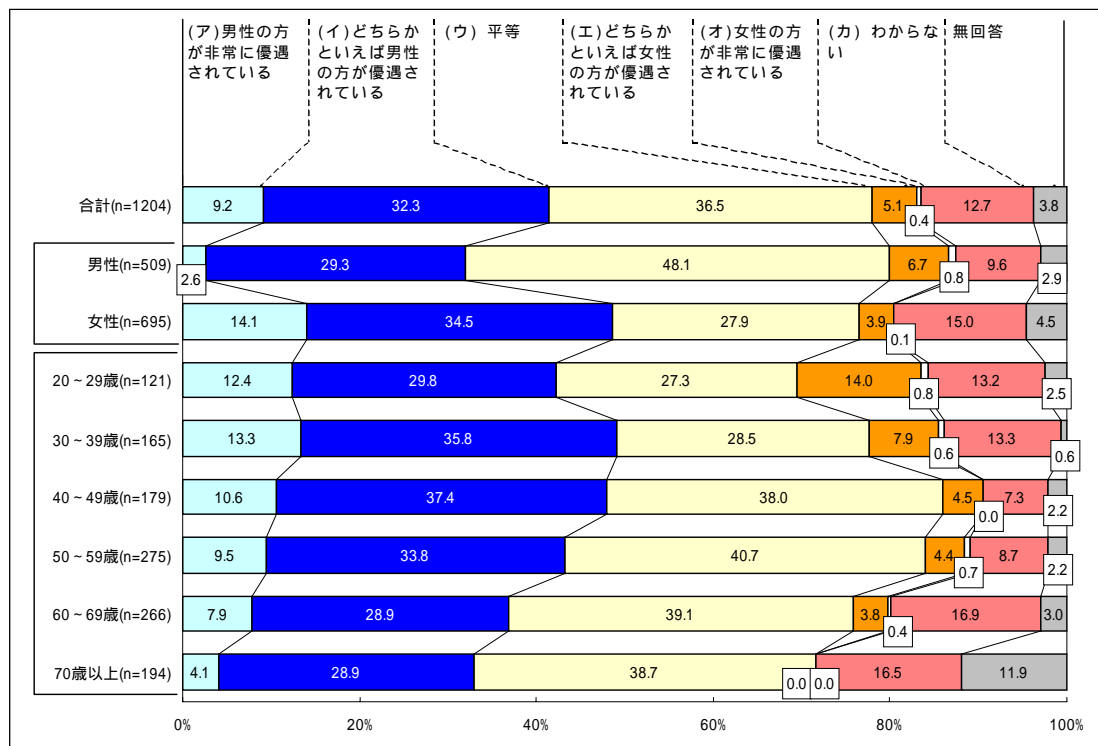
【年齢別】

40～49歳で「男性の方が非常に優遇されている」が18.4%と、他の年代に比べ高い。

法律や制度では

『男性優遇』41.5% > 「平等」36.5% > 『女性優遇』5.5%

法律や制度における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「平等」が36.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.3%と高く、「わからない」が12.7%で続いている。『男性優遇』と「平等」が4割前後と、『女性優遇』(5.5%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が48.1%と、女性(27.9%)に比べ20.2ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が14.1%、『男性優遇』が48.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

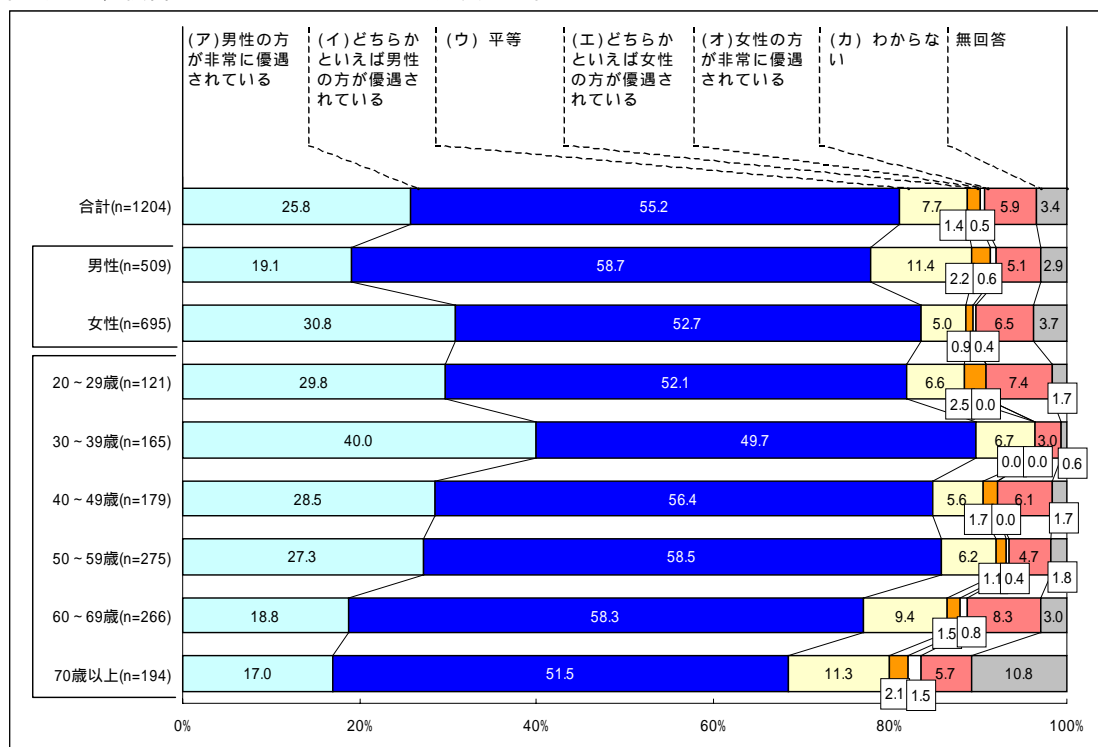
【年齢別】

20～29歳で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が14.0%、『女性優遇』が14.8%とそれぞれ30歳以上に比べ高い。

社会通念、慣習・しきたりなどでは

『男性優遇』81.0% > 「平等」7.7% > 『女性優遇』1.9%

社会通念、慣習・しきたりなどにおける男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が55.2%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が25.8%、「平等」が7.7%で続いている。『男性優遇』(81.0%)が、「平等」(7.7%)、「女性優遇」(1.9%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が11.4%と、女性(5.0%)に比べ6.4ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が30.8%と、男性(19.1%)に比べ11.7ポイント高い。

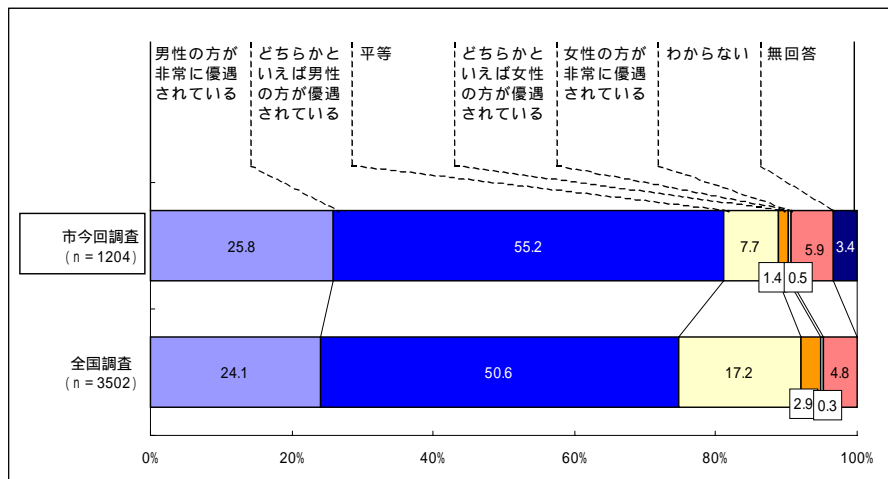
【年齢別】

30～39歳で「男性の方が非常に優遇されている」が40.0%と、他の年代に比べ特に高い。

なお、70歳以上で『男性優遇』が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

参考：全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	19.1	58.7	11.4	2.2	0.6	5.1	2.9
	全国調査	1616	19.2	50.8	22.2	3.3	0.4	4.1	-
女性	市今回調査	695	30.8	52.7	5.0	0.9	0.4	6.5	3.7
	全国調査	1886	28.2	50.5	13.0	2.5	0.3	5.5	-

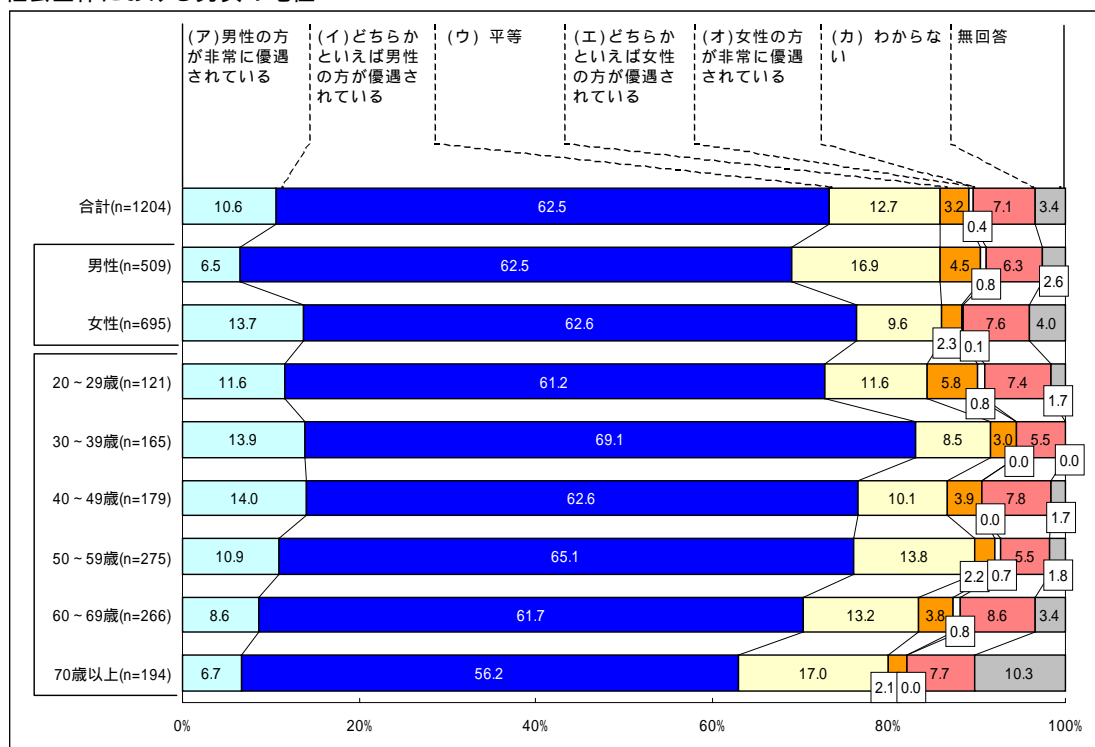
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、女性で「平等」が低い。男性では「平等」が低く『男性優遇』が高い。

〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

社会全体では

『男性優遇』73.1% > 「平等」12.7% > 『女性優遇』3.6%

社会全体における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が62.5%と最も高く、「平等」が12.7%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.6%で続いている。『男性優遇』(73.1%)が、「平等」(12.7%)、「女性優遇」(3.6%)を大きく上回っている。

【性別】

男性で「平等」が16.9%と、女性(9.6%)に比べ7.3ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が13.7%、「男性優遇」が76.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

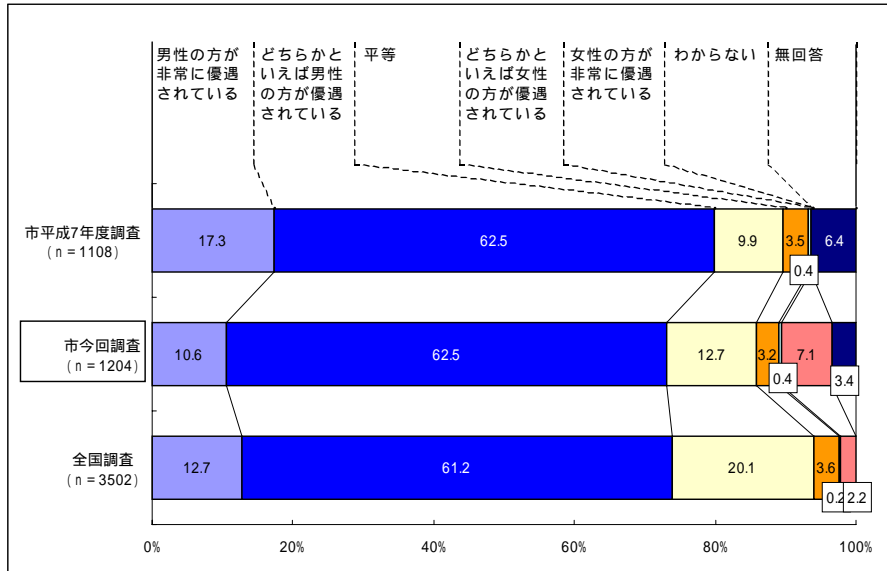
【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で『男性優遇』が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	12.5	65.1	14.1	3.9	0.2		4.2
	市今回調査	509	6.5	62.5	16.9	4.5	0.8	6.3	2.6
	全国調査	1616	8.9	58.2	26.1	4.6	0.4	1.9	
女性	市平成7年度調査	643	20.2	61.0	7.2	3.3	0.5		7.9
	市今回調査	695	13.7	62.6	9.6	2.3	0.1	7.6	4.0
	全国調査	1886	16.0	63.8	14.9	2.8	0.1	2.5	

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、男性で『男性優遇』が減少している。女性では特に大きな差異は認められない。

平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性で「平等」が低い。女性では特に大きな差異は認められない。

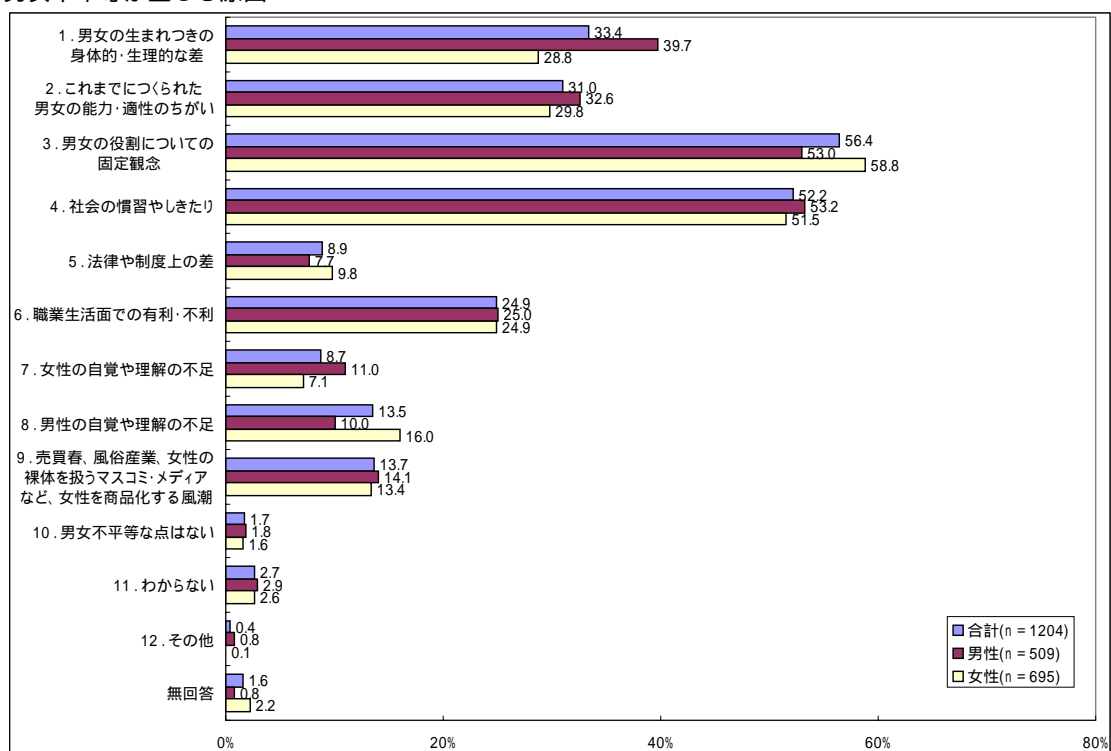
〔 注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。
 全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

(2) 男女不平等が生じる原因

問2 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。(3つまで選択可)

「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が5割以上と高い

男女不平等が生じる原因



(全体・性別)

【全体】

「男女の役割についての固定観念」が56.4%、「社会の慣習やしきたり」が52.2%と高く、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が33.4%で続いている。「男女不平等な点はない」は1.7%にとどまっている。

【性別】

男性で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が39.7%と、女性(28.8%)に比べ10.9ポイント高い。一方、女性では「男女の役割についての固定観念」が58.8%、「男性の自覚や理解の不足」が16.0%とそれぞれ男性に比べやや高い。

男女不平等が生じる原因

(%)

	n	1 男女の生まれつきの身 体的・生理的な差	2 これまでにつくられた 男女の能力・適性のち がい	3 男女の役割についての 固定観念	4 社会の慣習やしきたり	5 法律や制度上の差	6 職業生活面での有利・ 不利	7 女性の自覚や理解の不 足	8 男性の自覚や理解の不 足	9 売買取、風俗産業、女 性の裸体を扱うマスコ ミ・メディアなど、女 性を商品化する風潮
合計	1204	33.4	31.0	56.4	52.2	8.9	24.9	8.7	13.5	13.7
20～29歳	121	31.4	32.2	70.2	55.4	13.2	22.3	5.0	6.6	9.9
30～39歳	165	37.6	30.3	63.6	60.6	10.9	26.7	6.1	11.5	9.1
40～49歳	179	29.6	26.8	62.6	59.2	10.6	25.1	8.9	12.8	16.8
50～59歳	275	33.1	29.8	56.4	54.2	8.0	28.0	8.0	17.1	17.8
60～69歳	266	33.5	32.0	50.0	47.0	8.6	25.6	11.7	14.7	13.9
70歳以上	194	35.1	34.5	45.4	41.8	4.6	19.1	10.3	13.4	11.3

	n	10 男女不平等な 点はない	11 わからない	12 その他	無回答
合計	1204	1.7	2.7	0.4	1.6
20～29歳	121	1.7	1.7	0.8	0.8
30～39歳	165	1.2	1.8	0.0	0.0
40～49歳	179	2.2	0.6	1.7	0.0
50～59歳	275	1.1	1.1	0.4	1.1
60～69歳	266	1.5	4.1	2.3	0.0
70歳以上	194	2.6	6.2	4.6	0.0

(全体・年齢別)

【年齢別】

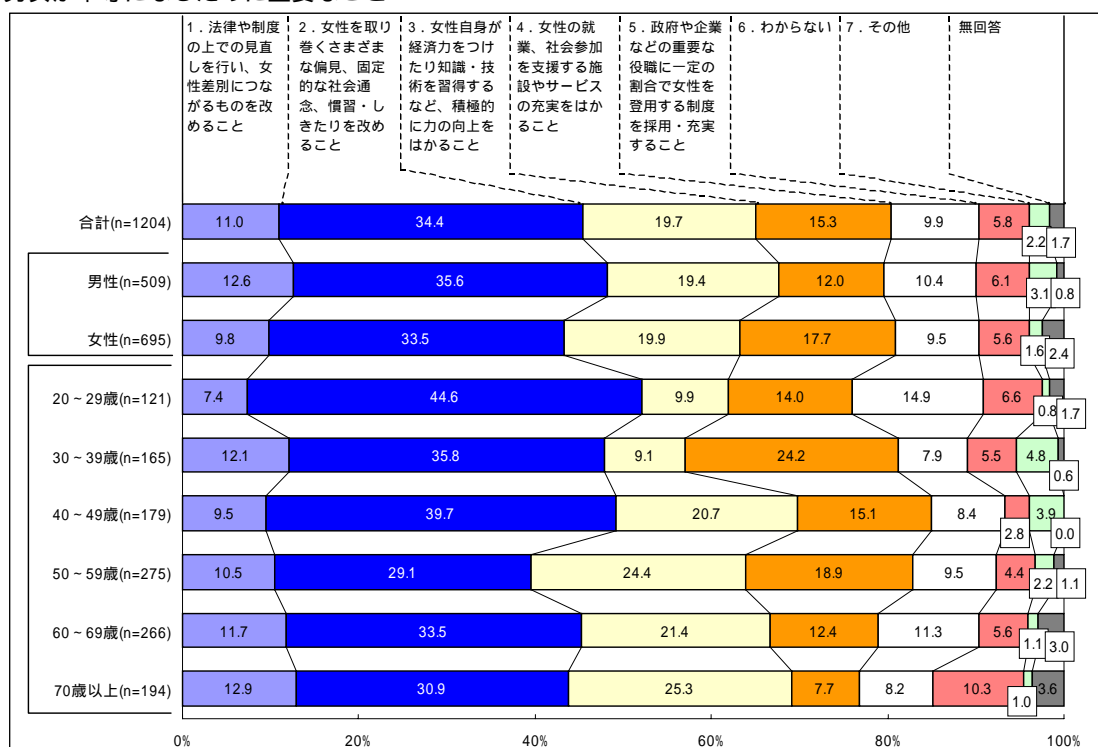
59歳以下で「社会の慣習やしきたり」が5割以上と、60歳以上に比べ高い。「男女の役割についての固定観念」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

(3) 男女が平等になるために重要なこと

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。(1つ選択)

「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が34.4%でトップ

男女が平等になるために重要なこと



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が34.4%と最も高く、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること」が19.7%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が15.3%で続いている。

【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

【年齢別】

40歳以上で「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること」が2割以上と、39歳以下に比べ高い。

2 職業生活について

(4) 女性のライフスタイルの理想と現実

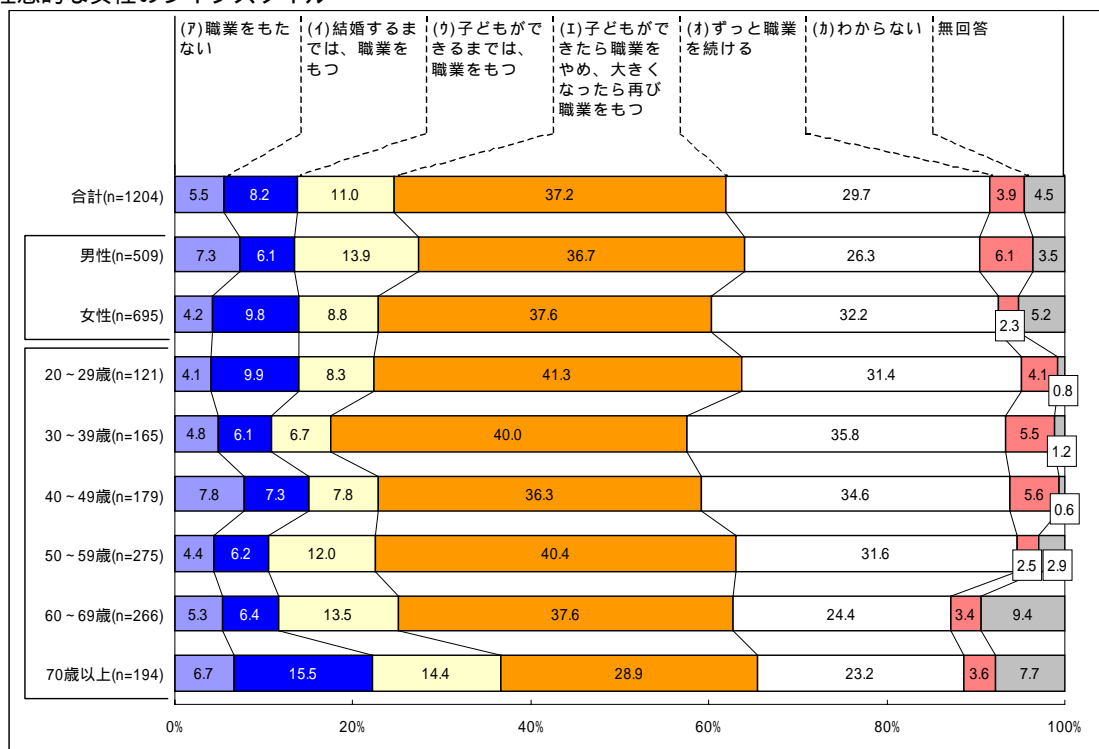
問4 理想的な女性のライフスタイルと実際の状況(現実)についておうかがいします。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの妻について、理想と現実をお答えください。(1つ選択)

「職業をもたない」を『家事専念型』、「結婚するまでは、職業をもつ」を『結婚退職型』、「子どもができるまでは、職業をもつ」を『出産退職型』、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」を『再就職型』、「ずっと職業を続ける」を『職業継続型』とする。

理想

『再就職型』37.2%、『職業継続型』29.7%、『出産退職型』11.0% の順

理想的な女性のライフスタイル



(全体・性別・年齢別)

【全体】

『再就職型』が37.2%と最も高く、『職業継続型』が29.7%、『出産退職型』が11.0%で続いている。結婚・出産を機に一時的でも職業を離れることが望ましいとした人(『結婚退職型』+『再就職型』+『出産退職型』)は、56.4%となっている。

【性別】

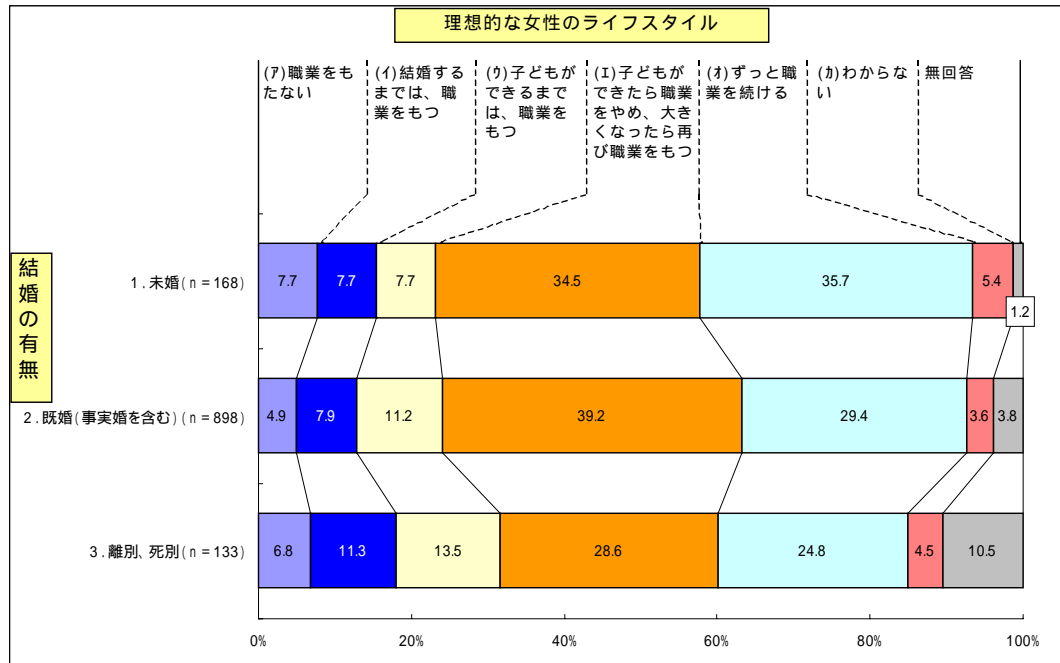
男性では『再就職型』、『職業継続型』、『出産退職型』、『家事専念型』、『結婚退職型』の順に割合が高いが、女性では『再就職型』、『職業継続型』、『結婚退職型』、『出産退職型』、『家事専念型』の順となっている。

【年齢別】

60歳以上で『職業継続型』が3割未満と、59歳以下に比べ低い。また、70歳以上では『再就職型』が28.9%と、69歳以下に比べ低い。

参考：結婚の有無別にみた調査結果

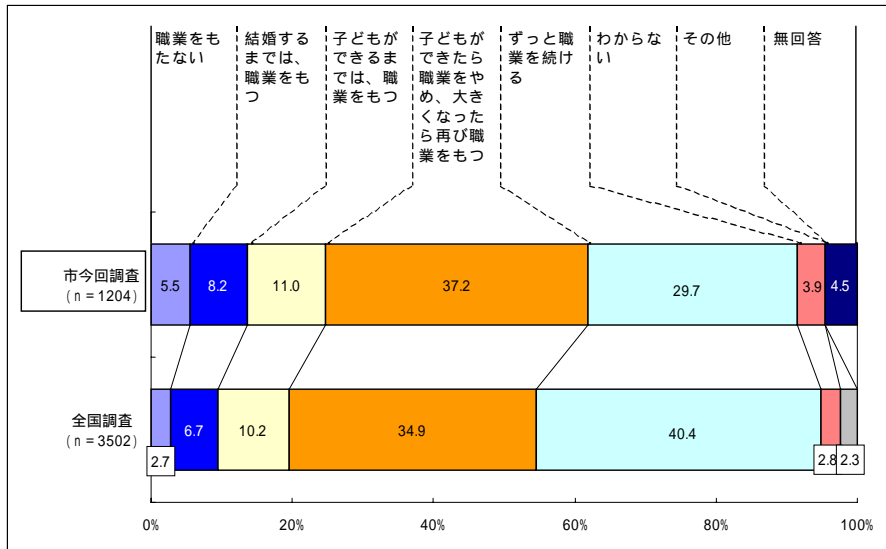
< 結婚の有無別 >



「未婚」では『職業継続型』が35.7%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ高い。

参考：全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	職業をもたない	結婚するまでは職業をもつ	子どもができるまでは職業をもつ	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	ずっと職業を続ける	わからない	その他	無回答
男性	市今回調査	509	7.3	6.1	13.9	36.7	26.3	6.1		3.5
	全国調査	1616	3.8	8.3	11.5	32.4	38.6	2.7	2.7	
女性	市今回調査	695	4.2	9.8	8.8	37.6	32.2	2.3		5.2
	全国調査	1886	1.7	5.4	9.1	37.0	41.9	2.9	2.0	

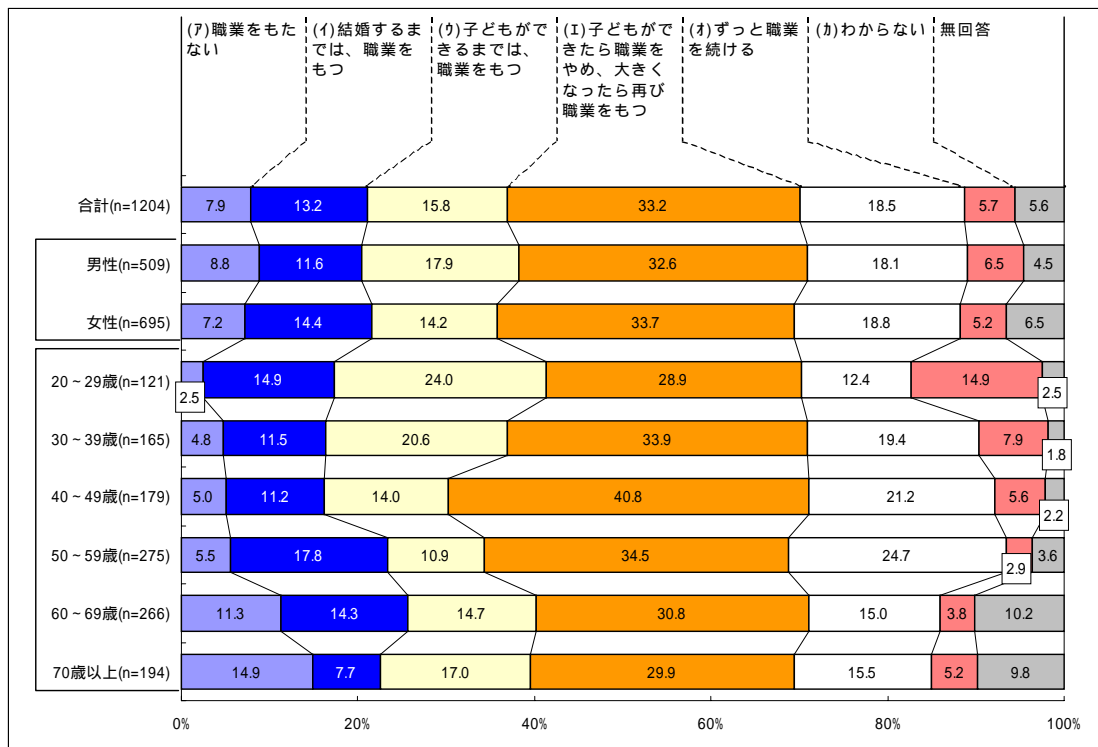
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『職業継続型』が低い。

〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。全国調査では「その他」の選択肢がある。 〕

現実

『再就職型』33.2%、『職業継続型』18.5%、『出産退職型』15.8% の順

現実の女性のライフスタイル



(全体・性別・年齢別)

【全体】

『再就職型』が33.2%と最も高く、『職業継続型』が18.5%、『出産退職型』が15.8%で続いている。結婚・出産を機に一時的でも職業を離れたとした人(『結婚退職型』+『再就職型』+『出産退職型』)は、62.2%となっている。

【性別】

特に大きな差異は認められない。

【年齢別】

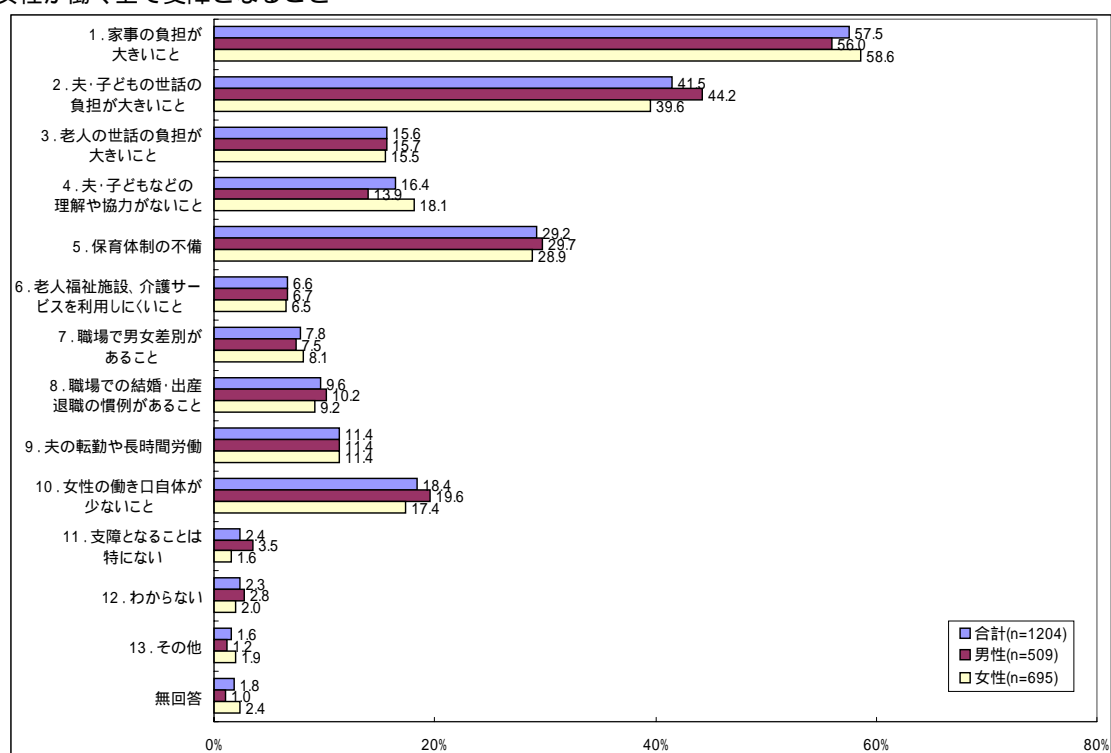
40～49歳で『再就職型』が40.8%と、他の年代に比べ高い。

(5) 女性が働く上で支障となること

問5 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。
(3つまで選択可)

「家事の負担が大きいこと」57.5%、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」41.5%、
 「保育体制の不備」29.2% の順

女性が働く上で支障となること



(全体・性別)

【全体】

「家事の負担が大きいこと」が57.5%と最も高く、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」が41.5%、「保育体制の不備」が29.2%で続いている。「支障となることは特にない」は2.4%にとどまっている。

【性別】

特に大きな差異は認められない。

女性が働く上で支障となること

(%)

	n	1 家事の負担が大きいこと	2 夫・子どもなどの世話の負担が大きいこと	3 老人の世話の負担が大きいこと	4 夫・子どもなどの理解や協力がなないこと	5 保育体制の不備	6 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	7 職場で男女差別があること	8 職場での結婚・出産退職の慣例があること	9 夫の転勤や長時間労働
合計	1204	57.5	41.5	15.6	16.4	29.2	6.6	7.8	9.6	11.4
20～29歳	121	66.1	43.0	11.6	16.5	36.4	5.0	7.4	19.0	14.9
30～39歳	165	58.2	50.9	6.1	18.8	47.9	3.0	6.1	12.7	14.5
40～49歳	179	58.1	47.5	15.6	15.1	30.7	3.4	7.8	8.9	14.0
50～59歳	275	51.3	36.7	19.3	17.8	30.5	7.3	8.0	8.0	15.3
60～69歳	266	57.9	41.0	16.9	18.4	24.8	9.8	9.0	9.0	4.9
70歳以上	194	58.8	35.1	19.1	10.8	12.4	8.2	7.2	5.2	7.7

	n	10 女性の働き口自体が少ないこと	11 支障となることは特にない	12 わからない	13 その他	無回答
合計	1204	18.4	2.4	2.3	1.6	1.8
20～29歳	121	14.9	1.7	0.0	0.8	0.0
30～39歳	165	17.0	0.6	1.8	2.4	0.0
40～49歳	179	16.8	3.9	1.7	5.0	1.1
50～59歳	275	23.6	1.5	1.1	0.7	1.5
60～69歳	266	17.3	3.0	3.4	0.8	2.3
70歳以上	194	17.0	3.6	4.6	0.5	5.2

(全体・年齢別)

【年齢別】

20～29歳で「職場での結婚・出産退職の慣例があること」が19.0%と、30歳以上に比べ高い。30～39歳で「保育体制の不備」が47.9%と、他の年代に比べ高い。また、59歳以下で「夫の転勤や長時間労働」が15%前後と、60歳以上に比べ高い。

参考：過去の市実施の調査との比較

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、以下のような結果となっている。

	増加したもの	減少したもの
全体	保育体制の不備 (+7.8 ポイント)	家事の負担が大きいこと (-11.7 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-11.4 ポイント) 職場で男女差別があること (-8.8 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-11.6 ポイント)
男性	-	家事の負担が大きいこと (-11.6 ポイント) 夫・子どもの世話の負担が大きいこと (-8.4 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-8.8 ポイント) 職場で男女差別があること (-9.4 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-6.3 ポイント)
女性	保育体制の不備 (+8.4 ポイント)	家事の負担が大きいこと (-12.2 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-13.6 ポイント) 職場で男女差別があること (-7.5 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-15.1 ポイント)

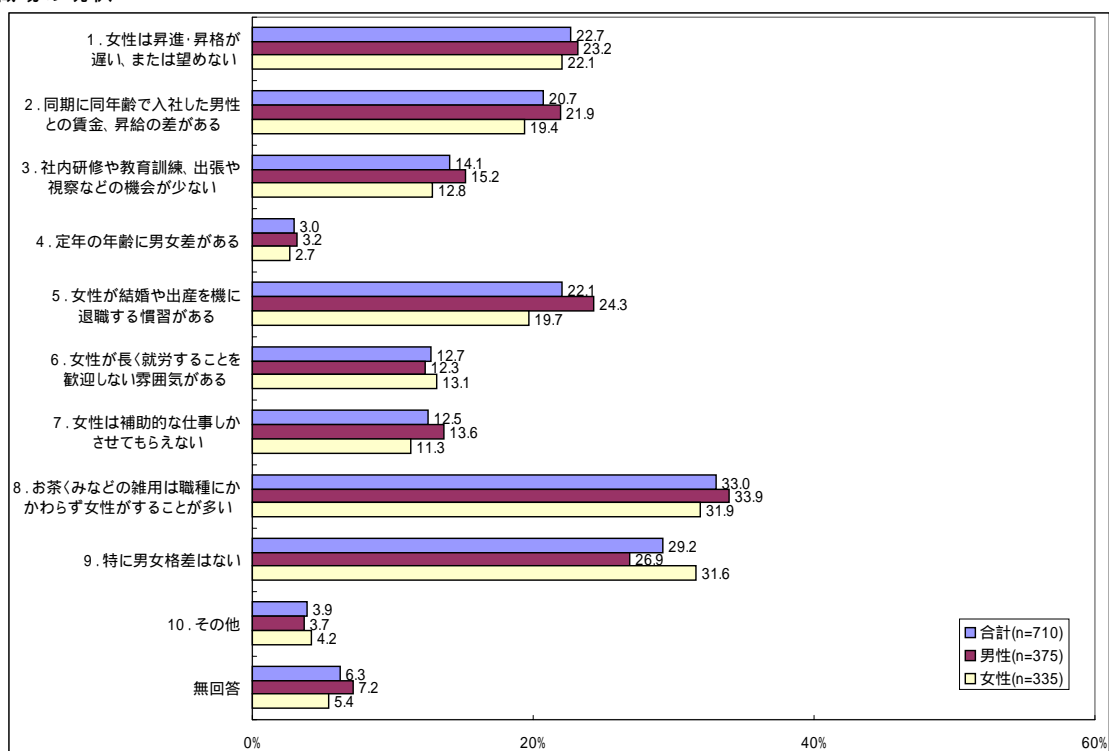
【注意点：平成7年度実施の市の調査では「支障となることは特にない」「わからない」の選択肢はない。】

(6) 職場の現状

問6 あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。(いくつでも選択可)

「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が33.0%でトップ
「特に男女格差はない」も29.2%と少なくない

職場の現状



(全体・性別)

【全体】

「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が33.0%と最も高いが、「特に男女格差はない」も29.2%と少なくない。次いで、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」が22.7%となっている。

【性別】

特に大きな差異は認められない。

職場の現状

(%)

	n	1 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない	2 同期に同年齢で入社した男性との賃金、昇給の差がある	3 社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会が少ない	4 定年の年齢に男女差がある	5 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	6 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	7 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない	8 お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	9 特に男女格差はない
合計	710	22.7	20.7	14.1	3.0	22.1	12.7	12.5	33.0	29.2
20～29歳	102	16.7	14.7	13.7	2.0	25.5	15.7	8.8	29.4	33.3
30～39歳	120	24.2	12.5	16.7	2.5	21.7	8.3	12.5	48.3	20.8
40～49歳	151	24.5	23.8	13.9	2.0	26.5	15.2	14.6	28.5	33.1
50～59歳	206	26.2	24.8	13.1	3.4	20.9	12.1	14.6	33.5	27.7
60～69歳	106	19.8	26.4	16.0	4.7	16.0	14.2	10.4	24.5	32.1
(70歳以上)	(24)	(8.3)	(4.2)	(4.2)	(4.2)	(16.7)	(4.2)	(8.3)	(29.2)	(29.2)

	n	10 その他	無回答
合計	710	3.9	6.3
20～29歳	102	2.0	14.7
30～39歳	120	3.3	5.0
40～49歳	151	4.6	1.3
50～59歳	206	4.9	2.9
60～69歳	106	4.7	9.4
(70歳以上)	(24)	(0.0)	(25.0)

(全体・年齢別)

【年齢別】

30～39歳で「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が48.3%と、他の年代に比べ高い。また、40～69歳で「同期に同年齢で入社した男性との賃金、昇給の差がある」が2割以上と、他の年代に比べ高い。

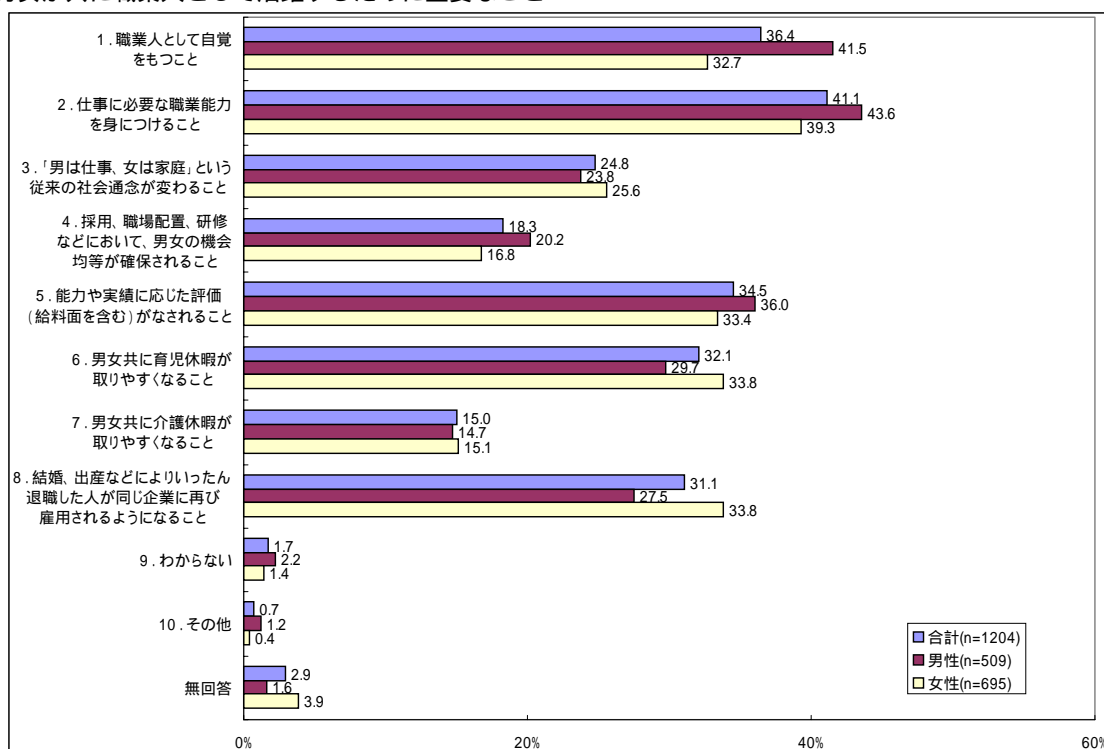
(70歳以上については、サンプル数が24と他の年代に比べ少ないため、分析の対象からは除き、参考とするととどめる。)

(7) 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

問7 あなたは一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで選択可)

「仕事に必要な職業能力を身につけること」が41.1%でトップ

男女が共に職業人として活躍するために重要なこと



(全体・性別)

【全体】

「仕事に必要な職業能力を身につけること」が41.1%、「職業人として自覚をもつこと」が36.4%、「能力や実績に応じた評価(給料面を含む)がなされること」が34.5%となっている。

【性別】

男性で「職業人として自覚をもつこと」が41.5%と、女性(32.7%)に比べ8.8ポイント高い。一方、女性では「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が33.8%と、男性(27.5%)に比べ6.3ポイント高い。

男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

(%)

	n	1 職業人として自覚をもつこと	2 仕事に必要な職業能力を身につけること	3 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること	4 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること	5 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること	6 男女共に育児休暇が取りやすくなること	7 男女共に介護休暇が取りやすくなること	8 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること	9 わからない
合計	1204	36.4	41.1	24.8	18.3	34.5	32.1	15.0	31.1	1.7
20～29歳	121	24.0	33.1	40.5	21.5	32.2	46.3	13.2	34.7	1.7
30～39歳	165	30.3	32.1	36.4	18.2	36.4	53.3	15.2	29.7	0.6
40～49歳	179	40.2	43.0	28.5	16.8	41.3	33.0	13.4	25.7	0.6
50～59歳	275	32.4	43.3	18.9	19.6	38.2	34.5	18.5	33.1	0.7
60～69歳	266	44.7	47.4	18.0	19.9	31.6	20.7	15.4	34.6	2.6
70歳以上	194	39.7	40.7	20.1	13.9	26.8	17.0	11.9	27.8	3.6

	n	10 その他	無回答
合計	1204	0.7	2.9
20～29歳	121	0.0	1.7
30～39歳	165	0.6	1.8
40～49歳	179	1.1	1.7
50～59歳	275	1.1	2.2
60～69歳	266	0.4	1.5
70歳以上	194	1.0	8.8

(全体・年齢別)

【年齢別】

39歳以下では、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」が4割前後、「男女共に育児休暇が取りやすくなること」が5割前後とそれぞれ40歳以上に比べ高い。一方、40歳以上では「仕事に必要な職業能力を身につけること」が4割以上と、39歳以下に比べ高い。また、40～49歳、60歳以上で「職業人として自覚をもつこと」が4割前後と、他の年代に比べ高い。